

# 基礎講座

## ユニセフと粉ミルク



保育園での給食風景

©日本ユニセフ協会

第二次世界大戦後、日本の子どもたちに不足していた動物性蛋白質を補うため、ユニセフ駐日事務局長だったストレーラー女史提唱のもと、1949年11月から1950年12月までの間に、全国12の都市において38ヶ所の保育園が選定され、粉ミルクを使った給食が実施されました。栄養に関する家庭の理解を深め、ひいては地域一般の関心を高めることを目的に、給食は小学校などでも始まりました。



給食の絵 ©日本ユニセフ協会  
鳥取市久松小学校2年生にしお ゆき子さん(昭和28年当時)

また、衛生に関する知識の普及にもユニセフは厚生省とともに取り組みました。調理に携わる人が健康であること、調理室内が常に衛生的に保たれていること、食物の選び方および扱い方に注意することなど、ユニセフ駐日事務所のスタッフだったローラ女史が講習会で直接指導しました。(給食開始後下痢症状を訴える子どもがいましたが、これは当時の日本の子どもがミルク製品に親しむ機会が少なく、子ども自身の乳糖の利用度が低いことから利用されない乳糖が大腸に直通して下痢となったようで、毒性による悪性の下痢ではありませんでした。)



子どもの感想文 ©日本ユニセフ協会  
元木 昭男くん(昭和28年当時)

日本人には粉ミルクの味になじみがないので、どうしたらおいしく飲んでもらえるか。この点に関して母子愛育会を中心に、ローラ女史も加わって、栄養指導を兼ねた講習会がたびたび企画されました。厚生省児童局より1951年に発行された「給食指導要領」にも、粉ミルクを使用した献立例が掲載されています。

ドーナツ				
食品名	使用数量	熱量	蛋白質	金額
	g	Cal	g	円 銭
ユニセフ・ミルク	25	90	8.9	.39
小麦粉	10	36	1.1	.60
人参	10	3.7	0.2	.20
りんご	20	9.2	0.6	1.30
油	3	27.0	-	.36
砂糖	2	7.8	-	.11
燃料	-	-	-	.50

備考：小麦粉の中に人参をすり下ろしりんごを小さく切って入れる。これをべつとりする程度に水溶きしておいたミルクで溶き適宜の大きさにちぎり、粉をまぶして熱した油の中で揚げる。熱いうちに砂糖をまぶす。

(出典：厚生省児童局「給食指導要領1951」P.39「ユニセフ給食献立表・第七例」より一部抜粋)

こうした戦後のユニセフ支援に携わった元厚生省職員の高橋和雄さんに、当時の状況を伺いました。

「昭和22年に厚生省児童局に保育園が作られ、開設されたばかりの保育園で保育所関係のすべての業務を担当していました。戦前に保育所の必要性が母子保護法で触れられていましたが、実際に行政指導および財政支援を国が始めたのは戦後になってからです。保育所担当は7~8人しかおらず、その人数で全国を扱うため、毎日夜遅くまで働いたうえに徹夜が週に1回は必ずある状態でした。

昭和24年に粉ミルクを含む給食を保育園で開始することが決定されてからは、毎週火曜日と金曜日に会議が開かれ、配布先の選定、パンフレットの作成、講習会の準備や開催に奔走しました。当時は物価が高騰し、物資の面でも栄養の面でも不足が続いていた時代です。家に粉ミルクを配給しても、結局は闇で売り飛ばされたりして、子どもに直接届かないので、「給食」という形をとって栄養が確実に子どもたちに届くように配慮したのです。

そして、各保育園で身体測定をしてデータを取り、毎月ユニセフに報告していましたので、データを見ると子どもたちの成長が確実に上がっているのが分かります。母子愛育会の努力もあり、母子保健が注目され、乳幼児検診が定着するに及んで、日本の乳児死亡率は減りました。母子保健までも含めて考えることは、ユニセフの支援から教わったと言えます」



高橋和雄さん ©日本ユニセフ協会



身体測定の様子

©日本ユニセフ協会

ユニセフ給食実施保育園幼児発育状況調査											
調査年		身長 (cm)						体重 (kg)			
月	日	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	7歳児	8歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児
24年	11月	93.3	99.6	106.9	114.2	121.5	128.8	13.6	15.1	16.6	18.1
25年	1月	91.0	97.3	104.6	111.9	119.2	126.5	13.1	14.6	16.1	17.6
2	97.1	103.4	110.7	118.0	125.3	132.6	12.6	14.1	15.6	17.1	
3	92.4	98.7	106.0	113.3	120.6	127.9	12.1	13.6	15.1	16.6	
4	91.0	97.3	104.6	111.9	119.2	126.5	12.6	14.1	15.6	17.1	
5	91.6	97.9	105.2	112.5	119.8	127.1	12.7	14.2	15.7	17.2	
6	92.2	98.5	105.8	113.1	120.4	127.7	12.8	14.3	15.8	17.3	
7	92.4	98.7	106.0	113.3	120.6	127.9	12.9	14.4	15.9	17.4	
8	91.0	97.3	104.6	111.9	119.2	126.5	12.6	14.1	15.6	17.1	
9	92.0	98.3	105.6	112.9	120.2	127.5	12.7	14.2	15.7	17.2	
10	92.0	98.3	105.6	112.9	120.2	127.5	12.7	14.2	15.7	17.2	
11	92.1	98.4	105.7	113.0	120.3	127.6	12.8	14.3	15.8	17.3	

(出典：厚生省児童局「給食指導要領1951」P.94「ユニセフ給食実施保育園幼児発育状況調査」)

日本でも1964年まで、物資による支援だけではなく、人びとの知識の向上も目指した活動がユニセフによって行われていたのです。現在もユニセフは、食糧や薬などを届ける仕事に加えて、支援を受けている人びとが自分たちで生活を改善できるように、知識と技術をひろめる活動に取り組んでいます。